

星花きらめく



令和元年6月25日(火)

長野市立裾花中学校

NO. 2

「主体的・対話的で深い学び」の実現により、 自らの進路を切り拓く学力を身につける！

～授業研究日① 国語科 技術・家庭科～

学校要覧（星花きらめく）でお示したグランドデザインの重点目標の「授業づくり」。今年度は、年3回の「研究日」に授業研究会を行い、指導力の向上、生徒の学力向上を図ります。その第1回目として5月30日（木）に2教科の授業研究会を行いました。

3年6組 国語科「後輩たちに向けて、魅力的な『6組版るるる』をつくろう」 S先生

○友と共に考えることができたグループ活動

グループ活動の中で、修学旅行新聞をお互いに見合いながら「これは何だろう？」と既習事項と照らし合わせながら内容を確認したり、新たに発見したりする姿が見られました。そして、そのたびに友と考え合う姿が印象的で、そういうグループ活動の場が設定することは大切であると感じさせられました。

また、同じ学年または、同じクラスの仲間がつくった「修学旅行新聞」を教材として扱ったことで、子どもたちにとってより身近で、意欲を高めることにつながりました。



1年4組 技術・家庭科 「引き出し付き棚の製作」「材料の性質」 K先生

○友達とともに特徴を確かめたグループ活動

「～してみたけどどうまくいかないな」とつぶやくと、「〇〇してみたらどう？」とアドバイスをする姿など、班ごとに生徒同士の関わりが多くみられた授業でした。

ある班では、それぞれの素材を折ってみて丈夫さを調べていました。A生が木片を折り「ちょっと硬いな」とつぶやき、続けてプラスチック片を折り「プラスチックのほうが折りがやすかった」と話すと、B生は意外そうに「そうなんだ！」と反応していました。ある生徒の行動をきっかけに、別の生徒が興味をもち、自分でも実際に試してみようとする姿がみられました。



セクハラや生徒に関わる相談窓口は

小山きよみ（養護教諭）
森川 美弥（養護助教諭）
廣田 和彦（教務主任） です

長野市立裾花中学校 文責 山口 近（教頭）

電話：026(226)1804

FAX：026(226)1881

電子メール susobanajh@nagano-ngn.ed.jp

HP：http://www.nagano-ngn.ed.jp/susobana



～地域公開日（5月8日） 校長講話～（抜粋）

長野市教育委員会は、目指す人間像として、「グローバルな視野を持ちながら、ローカルにたくましく生きる自立した18歳」を掲げている。その姿として本校では、学校教育目標に、「敬愛 深い思いやりをもって自他を大切にする生徒」「自律 自分の生活を見つめ、よりよく生きようとする生徒」「丹精 課題をもって学び、自分を磨き鍛える生徒」を掲げている。私はこれらを実現するため、「つながる学校」をキーワードとして掲げた。そして、「時」「人」のつながりの中で「自立」した生徒を育てたい。学校では、生徒の「人間として調和の取れた成長」を願い、親、地域の皆さん、教員という、大人の目行き届く中で、自ら立つことのできる生徒を育てたい。

そのために、学校教育目標の重点を『授業づくり』『学級づくり』『学校づくり』『個性づくり』とした。『授業づくり』では、「主体的・対話的で深い学び」の実現により、自らの進路を切り拓く学力を身に付けたい。『学級づくり』では、友との関わりを通して、自己有用感を高め、自己肯定感を高めていきたい。『学校づくり』では、保護者・地域と連携し、落ち着いたある「安全・安心な学校」を目指す。『個性づくり』では、部活動を通して、好きなスポーツや文化活動に親しませ、個性の伸張に努めていきたい。

テレビや新聞、インターネットに、学校にまつわる生徒の記事が掲載されない日はない。教育に携わる者として、とても心が痛むと同時に、よそごとではないと考えている。生徒同士のトラブルに関しては、生徒には、行動を起こす際、その言動をとることによって周囲にどのような影響を及ぼすか考え、判断して行動するよう話している。「その場の雰囲気」「楽しそうだったから」「何も考えていない」といったことでは、だめだと繰り返し、話している。中学生であれば、この言動の後にはどのようなことが起こるか予想がつかず、体が大きくなり、力が強くなってきている中学生が行動を起こすと、思いも寄らない事態を引き起こす可能性があると同時に、言葉は心を傷つけ、行動は物を壊したり体を傷つけたりする可能性がある。被害者を出したくない。そして、加害者を出したくないと常々話している。

教師の言動に関しては、体罰、暴言、セクハラ、パワハラ、そして、飲酒、交通安全等について、資料を読み合ったり、自らの行為を見返したり、話し合ったりしながら研修を行っている。また、「SNS等で保護者や子どもたちと個人的なやりとりをしない」「できるだけ相談は複数で行う」等、生徒への対応についても研修を行っている。

連休前に発行した学校だよりに掲載したが、相談窓口として、小山きよみ（養護教諭）森川美弥（養護助教諭）廣田和彦（教務主任）を示している。もちろん、担任、学年主任、教頭、校長、誰でもかまわない。また、学校の在り方として、様々な個性、要望に対応するため、学級の枠を越えて『学級担任制』から『学年担任制』に取り組んでいる学校があるが、これから、メリット、デメリットを見極めながら、少しずつ取り入れていきたいと考えている。

これからの部活動については、平成27年度は全校生徒823名で27学級、今年度は666名で24学級と、子どもが少なくなり、職員も減ってきている。平成27年度と同じ19の部活について、今後、部活動数の見直しを進めていく。現在の1年生が在籍している状況で廃部はしないが、子どもの個性を伸ばすためには、様々な選択肢があることが望ましいことであり、方向としては、学校の部活動から、地域の社会教育活動へ移行し、地域の力を大いに取り入れ、活用していきたいと考えている。今年度の部活動の基本は、長野県教育委員会や長野市の方針に則って行う。水曜日をノー部活デーとし、月・火・木・金の放課後は2時間で、朝部活は行わない。また、新人戦やコンクール・発表会が終了した部活動より、日没に合わせた活動終了時間とする。休日については、土・日のどちらか3時間。祝日の活動は認められるが、部活動を延長する形での社会教育は認められない。今後、地域とともに様々な形を模索していきたい。

自転車の利用についてだが、県の条例で、学校で自転車通学をする場合、原則、保険に加入することになった。自転車保険に加入する以外にも、日常生活における偶発的な事故で、被保険者とその家族が、他人を死傷させたり、他人の財物に損害を与えたりした時に、法律上の損害賠償責任の額が補償される、他の保険に付随して加入する個人賠償責任特約、日常生活賠償特約などもある。いずれかの保険に加入するようお願いしたい。